

2019年度 東京都医療社会事業協会連続講座  
多問題を抱える家族の理解と支援事例書式

<事例提出時の留意点>

- ・本講座では事例検討は行いません。あくまで事例を活用し、学びを深めることが目的です。
- ・提出いただいた事例が必ずしも講義で使用されるとは限りません。
- ・講義で使用させていただく場合、情報の追記をお願いする場合がございます。
- ・最大でも3枚(A4)までにまとめてください。
- ・**提出期限 2019年12月2日(月)**

提出者氏名：山田 太郎

病院名： ○○○○リハビリテーション病院

家族が抱える問題※複数選択可

ア**ディクション**(アルコール問題含)・DVや虐待等の暴力・**アダルトチルドレン**・精神疾患・**家族不和**・

その他 ( )

(1) 事例提出理由 (SWが感じた困りごとや疑問に思っていることも記載)

アルコールの問題を抱える本人自身に危機意識がなく、家族が困り果てているなかで、本人・家族それぞれにどう関わるべきだったのか不安全感を感じたため。

(2) 事例概要

クライアント：Aさん 50代男性

診断名：脳出血

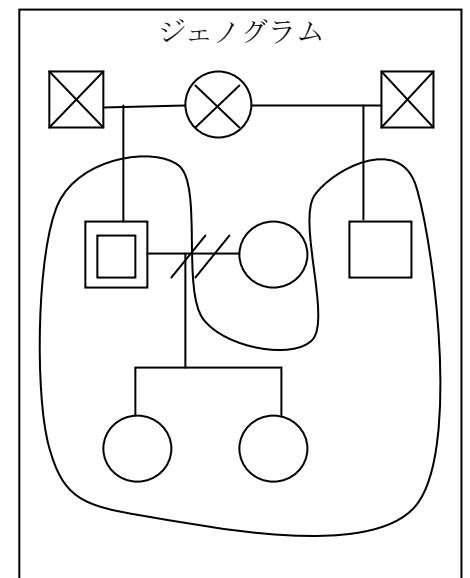
既往歴：高血圧(未加療)

職業：元々は大工。発症を機に退職。

経済状況：傷病手当金受給中。

住宅状況：アパート(賃貸)

家族状況：長男(20代、フリーター)、長女(10代、小学生)、  
本人の弟(40代、会社員)との4人暮らし。  
妻とは離婚。



(3) 支援経過の概略(援助・支援状況について、その事実経過の概要をわかりやすく記載)

脳出血後のリハビリ目的で回復期病棟に入棟。麻痺は軽度で、ADLは自立、高次脳機能障害(注意障害、遂行機能障害等)が残存。家事動作などはできるが、重いものを持つことや梯子に昇る作業は注意障害からもリスクが高いと判断し、復職は困難であると本人家族に説明し、退院後は外来リハビリに通院しながら、復職支援機関に繋げることとなった。入院中は断酒しており、本人は「もうお酒は飲まない」と話し、断酒の意向であった。入院後2ヶ月で自宅退院となる。

退院後1ヶ月ほどで飲酒を再開し、内服も自己中断してしまった。家族は困り果て、何度もSWに相談に来所されるが、本人は危機意識を感じておらず「以前は焼酎をストレートで飲んでいましたが、今は薄めているから大丈夫」「週に2日は休肝日をつくっている」など楽観的な発言を繰り返した。SWから飲酒の話しをすると冗談を言う等してはぐらかし、家族から話しをすると喧嘩になってしまい、SWは家族の思いの代弁、再発リスクの説明をするも、断酒は困難であった。結果退院後5ヶ月ほどででんかん発作を発症し、再入院となり、重度の麻痺が残存した。

(4) MSWの想いや・見立て

- ・急性期を含めると約3ヶ月断酒しており、特に禁断症状などもなかったため、再飲酒のリスクは低いと考えていた
- ・本人は長女への思いを口にし、家事もきちんとこなしており、健康維持への動機付けは高いと考え、「長女のためにもアルコールの問題に向き合うべきではないか」と繰り返し話したが、あまり効果がなかった。

(5) 講義で取り扱ってほしいこと

- ・本人がアルコール多飲への問題意識が低い際の関わり
- ・アルコール問題を持つ親と接する子へのアプローチ